平成26年(2014)
阿づまの光
9月号・Septembro

五代教主作 鉄絵茶盌 銘「一つ島の一つ松」
［高熊山土＋月宮宝座松釉］

題字出口直日

通巻第546号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

かむながら神のまことの御教は
愛善世界の提唱なりけり

出口王仁三郎聖師

首都圏宣教と主会の活性化

大本本部長・東京宣教センター長　浅田秋彦（あさだ ときひこ）

このたび8月1日付で、大本本部長を拝命しました。心引き締まる思いでございます。東京宣教センター長と兼任でまいりたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

「関東が栄えないと日本が、世界が良くならない。関東は主会が頑張らないとだめ、教区ではだめ」（平成12年四代教主さま）。このお言葉は、私の首都圏宣教の指針であり、この指針と課題をもって、3年前に赴任しました。

まず、大本公開講座（月1回新橋）、大本常設講座（月水金の昼・夜）を充実させ、身の上相談の場も設け、宣教活動の充実を図りました。その結果、大本を求めてくる人が徐々に増えてきました。

また、東光苑月次祭以外の日、特に夜間は来苑者もほとんどなく、何とか活気づけたい思いから、短歌会（土）、霊界物語拝読会（木）、エスペラント講習会（金）などを開催しました。プランター栽培は2年目に入りました。

さらに、月次祭の祭典後に講話と奉納を導入し、祭典行事を盛り上げていきました。

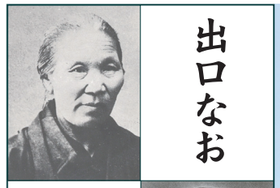
このように、東京宣教センターの活性化が進みますと、その影響を受けて、各主会と管下の分所・支部の活性化が進むのが、自然の流れであろうと思います。

分所・支部は〝綾の高天原〟に次ぐ天国団体であり、祭儀を行い、教義を広め、信徒を強化育成し、さらに社会公共の福祉増進に寄与する機能を有すると言われています。各機関で葬祭を独自で行い、拝読会、茶道会、役員の講話、エスペラント会、八雲琴研修などを進めていけば、主会の本苑化・分苑化への道も開けていくかと思います。

首都圏宣教の本格化と主会・分所・支部・会合所の活性化は、とにかく具体的方策を一歩一歩進めること以外に答えはありません。これからも活性化へ向けて、鋭意進めていただきたいと願っています。

出口王仁三郎の提言

～未来の世界・政治・教育は～



出口なお

王仁三郎の世界を語る

大本公開講座

日本人の使命とは

混迷の現代において、政治、経済、教育などが行きづまり、私たちは、今後の世界のあり方を模索しています。

『大本神論』には、日本人の使命と神の経綸が一貫して示されています。さらに、神も時代の流れには叶わず、世の中を善くするも悪くするも、私たち人間の努力次第であると啓示されています。

開祖に神懸りした国祖・国常立尊は、人心を立替え立直し、〝みろくの世〟を建設すると宣言されました。そして、神はその型（モデル）として、日本と日本人を生み出したと言われています。

私たちは、日本人としての誇りをもち、神から授かった使命を自覚しなければなりません。

日本の国柄

戦後、日本は経済至上主義をとり、資源や市場を海外に求めました。

その結果、欧米の生活スタイルや文化が国内に流れ、日本古来のよき伝統や価値観が崩れつつあるように感じます。政治家や企業の倫理観は薄れ、家庭崩壊や青少年による犯罪が相次いでいます。〝キレる子供〟〝成人病〟なども、食生活をはじめとする生活環境の変化に、原因があるのではないでしょうか。

物は豊かになりましたが、心の豊かさ、潤いは、残念ながら乏しくなっています。

かつて、日本の村々には伝統的な祭りや行事があり、村全体が一つの家族のような存在でした。そういった環境で子どもは多くの体験を積み、自然と共に心豊かに育っていました。

王仁三郎聖師は、日本の国柄について歌で説いています。

天地のはじめに生まれし日の本の
国は世界の祖国なりけり
山ゆけば山に神あり川ゆけば
川に神ます日の本の国

天地の初めに生れた国が日本であり、世界の祖国であるというのです。そして、日本には山にも川にも野にも、神さまはいらっしゃる。日本人の心の根底には、自然に対する畏敬の念があるのです。

自然への感謝と敬う心が〝ありがたい〟、〝もったいない〟という言葉を生んだのではないでしょうか。自然と共生してきた、日本人の誇りとアイデンティティーを呼び起こし、〝美し国日本〟を見直す時代に入っていると思えてなりません。

講師　出口眞人（でぐちまさと）
（社会福祉法人愛善信光会理事長）

日本人の心

聖師は日本人の国民性を『義を見ては勇み利をみてしりぞくは日本御民の真心なりけり』と表しています。利益を求めず、義によって行動をとるのが、日本人の心にあるというのです。

〝義〟は、心の奥底から奮い立つ魂で、世のため人のために、吾が身を忘れて力を尽くす精神を言います。

阪神淡路大震災、東日本大震災の混乱に乗じた窃盗はほとんど発生しませんでした。被災者は一人10分程度というルールの下、順番を守り、交代で入浴しました。これは外国人から見たら、信じられない光景だそうです。

日本は〝義〟で国が成り立ち、その心が〝大和魂〟です。聖師は、利害や損得を捨てて、平和、文明、自由、独立、人権を守るために弱きを助け、強きものに立ち向かう精神が、本当の〝大和魂〟だと示しています。

教育の根本義

聖師の「教育論」は、「盆栽を育てるようではいけない」とされ、現代の家庭、地域、学校の教育現場と照らし合わせると、大いに学ぶべき点があります。基本的に、子どもの教育には、放任の中に干渉があり、干渉の中にも放任が必要であると述べています。児童教育においては、親の干渉を受けすぎずにのびのびと育てた方がよいということです。

そして、一人ひとりが天から授かった個性を、周囲の人が伸ばしてやることが重要と示しています。

さらに大人になるにつれ、歴史、地理、倫理、国家天職の4項目の基礎を教育の中で生かし確立すれば、行動も精神も培われると言っています。

日本の国体

日の本は神の国にしありながら
神いますこと知らぬ人のみ

聖師は、日本が神国でありながら、神の存在を信じない人が増えているのを嘆いていました。

そして、『人は神の子、神の宮』と説き、『日本魂を研ぎすまして、世を救う人が誠の神である。または、ほまれある、そのわが日の本の国体を説き明かす、そういう人こそが神である』と示しています。

世の中で生きていく上でなすべきことは、いっぱいあるけれども、〝日本という国を護る〟ことこそが一番大事だと説いているのです。

神まもる我日の本の中堅と
なりてすすめよ昭和青年

日本から学んだ台湾

1895年、下関講話条約が結ばれ、日本は台湾を統合します。以降50年に渡り、台湾は日本人から、日本語をはじめ日本式の教育を受けました。

この結果、台湾の人たちは、根底に流れる精神文化を、日本教育によって培ってきたというのです。それは、礼儀正しさであったり、師弟愛、家族愛、道徳心といったものです。

そして現在、台湾では日本の和歌（作歌）を通して、大和心を学ぼうという方が増えているそうです。それは、日本魂を理解するためです。それぞれの短歌には、どのような気持ちが込められているのか、自分が作者になったつもりで、勉強しているそうです。

台湾の人たちは、今でも日本人に対して、大きな感謝を抱いています。台湾人に初めて教育を施したのは日本人だったというのです。

日本人の抱擁性

聖師は言霊学上、日本を宇宙創世の根源地と位置づけています。そこに存在する私たちは、本来の日本魂を取り戻さないといけない。大本の教えである〝改心〟と〝身魂磨き〟には、そのような意味が含まれているのです。

聖師は日本の有様について、繰り返し述べています。〝みろくの世〟実現の前には、立替え立直し、大峠という厳しい時代があると言われていますが、最終的には神さまの大御心で、必ず良い方向に進むと示されているのが、確固たる教えの根幹です。

また聖師は、『わが日本神洲の国民は、古来抱擁性に富んでいた。そして固有の民族性に少しの動揺をきたさなかったことは、世界の驚異とするところである。世界の文化をことごとく吸収して、同化し、精錬して、さらにより以上美しきものとして、さらにこれを世界に頒与するところに日本人の生命があり、使命があるのである』とも示しています。

日本の歴史を振り返ると、戦争、自然災害など大きな災難を乗り越えて、新しい国づくりを模索し、達成してきた民族であることがわかります。

あの世を知ってこの世に生きる

ベストセラーになった『人は死なない』の著者、矢作直樹氏は救命救急医師でありながら、「人は死によって肉体は滅びるが、魂は永遠である。人の命は神の摂理によって定められている」と説いています。

現代人からそういった感覚が薄れつつあるので、人生を楽しみ、穏やかに逝ってほしいという思いから、『人は死なない』を執筆されたそうです。

確かに、一昔前の日本人は、死期が迫ると「お迎えが来る」と言い、また「生まれ変わったら○○したい」と〝輪廻転生〟を信じていました。

矢作氏の死に対する考え方は、大本の教えにある霊界観と合致します。

聖師によると、霊界では男性は30歳くらい、女性は20歳くらいの容姿になると言われています。現界での肉体は年を経るごとに衰えますが、霊体は不老不死のままに生き続けるのです。

私たちは〝生と死〟というものを真剣に考えなくてはいけません。私たちが未来を語る上で、死後の世界を考えることは、非常に重要だと思います。

死後の世界を信じることができれば、この世での人生を、より豊かな充実したものになるよう努力できるでしょう。逆に、死によって、魂も肉体と同時に消えてしまうのならば、果たして向上はありえるでしょうか。自分のためにも、他人、世の中のためにも役立つ喜びを求めなくなるかもしれません。

人の本体は霊魂であり、そこには神が授けた霊性が宿っている。それを磨き、向上させるために人生はある。体は霊魂の器であるというのが、大本の人間観です。

みろくの世とは

最後に、聖師が示した〝みろくの世〟の姿を紹介したいと思います。

『善い事をすればよくなり、悪い事をすれば悪くなる世を称してミロクの世というのである。今までの世は、悪い事をしても旨く世間をごまかすことができれば立身出世もできるし、善い事ばかりをしていても、虐げられ苦しめられ悲惨な境遇に泣かなければならぬものも数多くあった。これは悪魔の守護する世であったからである。ミロクの世になってからは最早かかる不合理は許されない。良いことをすればどんどんよくなり、悪いことを企つれば片っ端から打ちくだかれ、悪の思わくは一つも立たぬ正しい世の中になるのである』

人は元来成長したい、世の中を良くしたいという気持ちがあると信じています。その思いこそが、神から授けられた霊性です。

それぞれが、自分の個性を善の方向へ発揮し、共々に〝みろくの世〟の世の住人となれるような働きをさせていただきましょう。

掲載文は、平成26年5月21日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は8月10日、午前10時30分から、斎主・藤本光総務管理課長のもと執行され、280人が参拝した。

祭員は茨城主会、少年祭員は茨城主会の村井晴斗くん、吉田聖晏くん、成嶋祥吾くん、片桐聖翔くん、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は佐々木武雄埼玉主会長、添釜は村井社中が担当した。

祭典後、浅田秋彦本部長があいさつに立ち、8月1日付で本部長に就任したことを報告し所信を述べた。

また、過去3年を振り返り、参拝者へ感謝の意を述べた。なお、浅田本部長は引き続き、東京宣教センター長を兼務する。

続いて奉納行事にうつり、神奈川主会が、愛善歌「祭祀」を斉唱した。

所信を述べる浅田新本部長

大本公開講座

第138回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る2014』は、8月20日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、成尾陽メディア愛善宣教課長が「出口王仁三郎が示した〝あの世〟に学ぶ―霊界と魂の関係―」と題して講演した。参加者は31人（内、一般11人）。

講座では、大本の霊界観をもとに、死後の世界の様子を分かりやすく説き、「天国の住民となるためには、真面目に働き、世のため、人のために尽くすことが肝要である」と結んだ。

参加者からは、「元気をいただくのと同時に日常を反省しました。涙を抑えるので精一杯でした。（女性・一般）」等の声が寄せられた。

第23回家庭平安祈願祭

日　時　10月18日（土）午前10時30分
場　所　大本東京本部・ご神前
申し込み　申し込み希望者は信徒・一般を問いません。ご本人に代わっての申し込みも可能です。所定の申込用紙に必要事項を明記の上、祭典玉串（任意）を添えて、所属の機関、または東京宣教センター祭務課までお申し込みください。
申込締切　10月13日（月）必着
その他　ご祈願は祭典後1週間執り行います

大本青年部発足50周年慶祝
第23回大本青年祭

関東教区からは14名が参加し、下記の成績をおさめました。

◇模擬祭典・6人以上の部　4位 東京主会
◇朗詠・松の部3位 東京主会　◇梅の部2位 茨城主会
◇神書個人拝読・成人の部
　1位 深津祐介（東京）6位 日下文世（東京）
◇神書個人拝読・未成年の部　4位 貴堂文奎（東京）
◇文芸展示・写真の部　銅賞 深津祐介（東京）

●離任あいさつ

和田桂一（わだけいいち）
祭務課長

ちょうど4年間お世話になりました。至らぬためご迷惑の多きこと、心からお詫び申し上げます。皆さまにお会いできた幸せを忘れません。どうかお元気で〝大神さまのみ光〟を阿づまの国・東光苑に高々と掲げ続けてください。

●着任あいさつ

吉村　仁（よしむら　ひとし）
祭務課

天恩郷万祥殿で6年間、装束や神饌物の勉強をし、瑞生大祭や各祭典にお仕えしました。その経験と知識を東京本部にて、皆さまのお役に立てるよう努めさせていただきたく思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

●着任あいさつ

穴井賢太郎（あないけんたろう）
愛善宣教課

出塾後、今年の4月よりご奉仕をさせていただき、この度、東京本部へ着任いたしました。大神さまのご守護、教主さまのご教導のもと、心よりご奉仕させていただきたく存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

東光苑祭典・行事予定

9月
8日（月）午後6時
東光苑秋をめでる夕べ
11日（木）午後7時
全国一斉世界平和祈願祭
14日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・長寿感謝祭・交通安全祈願祭・秋季合同慰霊祭
17日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講師　鈴木林太郎（愛善宣教課主事）
講題　神と人～人は神の子、神の宮～
27日（土）28日（日）
東光苑秋季祭式講習会

10月
12日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭
15日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講師　長友邦之（生産組合皆農塾代表）
講題　食が育てる命と霊性
　～今こそ、お土の心を～
18日（土）午前10時30分執行
家庭平安祈願祭（23回）
18日（土）午後7時
霊界物語全国一斉拝読会（47回）
25日（土）26日（日）
教本2級認定講習会